

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【つばさ小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p>〈学習上の課題〉前学年以前の内容を問う問題の正答率が低い。 〈指導上の課題〉児童が既習事項を振り返ったり、反復や習熟に取り組む時間の設定が不十分である。</p>	<p>・ドリルパーク等を活用し、現学年以前の内容も含め、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む(月に2回以上の実施)。 ・系統性を意識した指導及び学習のために、「ドリルパーク」等を活用し、既習事項の定着状況やレディネスを確認する機会を設定する【学期に2回以上の実施】。</p>
思考・判断・表現	<p>〈学習上の課題〉国語の「B書くこと」の問題やその他の教科の文章表現型の問題で正答率が低い。自己の考えや表現についてメタ認知し、自己調整する力が弱い。 〈指導上の課題〉児童が自己の考え・表現について、評価基準や他者の考え・表現を参照しながら振り返り、見直す機会が不十分である。</p>	<p>・問題解決型の学習過程や、ルーブリック等を活用した評価基準の共有化・明確化と振り返りを取り入れた授業を行う【学期に2回(単元以上の実施)】。 ・1人1台端末を活用した共同編集や他者参照の機会を設定し、協働的な学びを通して考えたり、表現したりすることができるようにする【R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができるか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を前年度より向上させる】。</p>

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能		<p>①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等</p>
思考・判断・表現		

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	<p>国語の漢字の問題で正答率がやや低いものがあった。4年と5年で学習する漢字について、どちらも同じくらいの割合で間違えた児童がいた。既習も含めて漢字の確実な定着を図るために、「ドリルパーク」等を活用しながら反復・習熟のための学習機会を確保していく必要がある。 また、国語では、最後の二問の無解答率が高く、解答時間が「足りなかった」と回答した児童は36.5%いた。読書機会の充実など、読む力(速さ)を高めるための指導も必要であると考えます。</p>	
思考・判断・表現	<p>国語と算数の両方で、記述式の問題に課題が見られた。解答類型を見ると、正答の条件2つのうち1つしか書いていないために不正解となる児童が多かった。各教科の学習における考えを文章に記述して表現させる活動では、ルーブリック等を活用した評価基準の共有化・明確化に取り組み、児童が「正答の条件」を意識して、解答したり自己評価や見直しをしたりすることができるようにする。</p>	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	C	<p>1学期の取組み状況についての教職員アンケートでは、「現学年以前の内容も含めた漢字や基本的な計算等の反復・習熟の月に2回以上の実施」と「既習事項の定着状況やレディネスの確認の学期に2回以上の実施」について、実施できたという回答が4~5割程度であった。</p>	<p>・モジュール学習の時間を活用し、ドリルパークの活用を推進する。【評価方法については変更なし】 ・「ドリルパーク」以外にも、教科書会社が作成するデジタルコンテンツにも既習事項やレディネスの確認ができるもの(「東京書籍」のMicrosoftFormsコンテンツなど)があるので、それらの活用方法を共有し、実施する。【評価方法については変更なし】</p>
思考・判断・表現	B	<p>1学期の取組み状況についての教職員アンケートでは、「問題解決型の学習過程や、ルーブリック等を活用した評価基準の共有化・明確化と振り返りを取り入れた授業の学期に2回(単元以上の実施)」と「1人1台端末を活用した共同編集や他者参照の機会を設定した授業の実施」について、7割程度の教員が実施できたと回答した。今後、さらに取組みを共有し、広めていけるようにする。</p>	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)